

防虫ネットと天敵放飼でコナジラミの発生を抑える

[研究のねらい]

消費者から”食の安心・安全”への要望が強い中、化学農薬をできるだけ使わない害虫防除技術の確立が求められています。そこでミニトマト栽培において、目合い1mmの防虫ネットと市販天敵オンシツツヤコバチを導入し、コナジラミ類の発生密度抑制技術を確立します。

[研究の成果]

- ①オンシツコナジラミが低密度時に寄生蜂オンシツツヤコバチを7日間隔で3回放飼すると、放飼開始から1か月後にオンシツコナジラミ幼虫への寄生率が高くなり始めます(図1)。
- ②目合い1mmの防虫ネットはコナジラミ類成虫の野外からの侵入を減らし、オンシツツヤコバチがハウス内でオンシツコナジラミの増加を抑えるので、長期間、安定的にコナジラミ類の発生を抑制できます(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- ①目合い1mmの防虫ネットはトマトハモグリバエなど他の害虫の侵入防止効果も期待できます。
- ②トマト黄化葉巻病が発生している地域では、タバココナジラミの侵入防止効果を高めるために目合い0.4mmの防虫ネットを使用してください。



写真1 オンシツコナジラミ成虫



写真2 オンシツコナジラミ幼虫

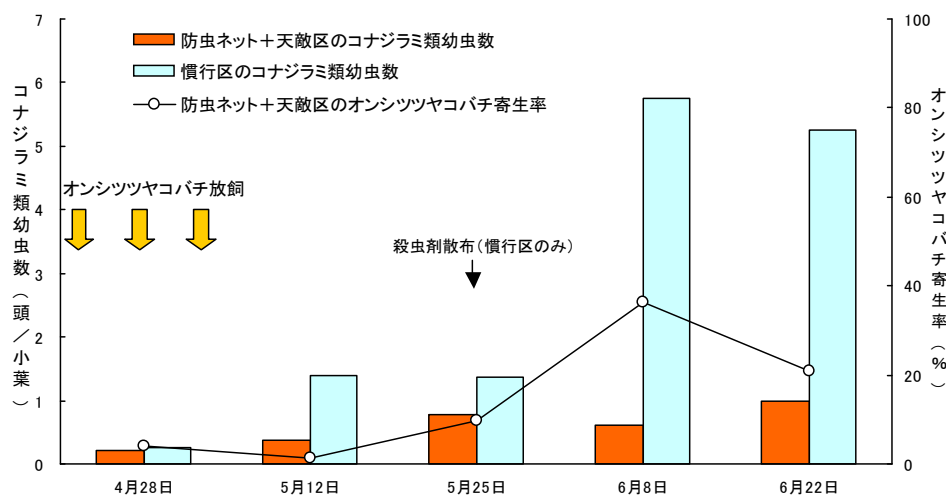


図1 防虫ネットと天敵放飼によるコナジラミ類の密度抑制効果(2005年、印南町)

実施年度：平成17年

担当者：岡本崇、井口雅裕、福嶋総子